

男女共同参画通信

GENDER EQUALITY NEWSLETTER BY WINGS KYOTO

March 2025
@KYOTO CITY

vol.59

女性も安心な
これからの地域防災

阪神・淡路大震災から30年

女性の参画で変わる、
これからの地域防災

この30年で何が進んだのか

阪神・淡路大震災当時は、女性たちの苦難は個別の問題であって社会的な課題ではないと考える人が多く、支援にも性別や立場の違いを配慮する視点が不足していました。その後の女性たちの活動や政策提言によって少しずつ認識が変わり、特に東日本大震災以降、女性が災害時に困難を抱えがちであること、特有のニーズがあること、性被害やDVも起こりうることを前提として支援策や相談体制が整えられたことは、大きな進歩でした。

2011年末に修正された防災基本計画では、防災対策に地域における生活者の多様な視点を反映させることを総則に掲げ、女性専用の物干し場、更衣室、授乳室の設置や女性用品の女性による配布、避難所における安全確保など、対応を細かく示しています。また、2020年には『災害対応力を強化する女性の視点』

があった。どうしているのかな」といった状況が報道されてきました。また、満足に治療やケアが受けられないまま亡くなる災害関連死も増え続けており、30年経っても変わらない状況に心が痛みます。

女性が防災に関する意思決定の場や対策現場に入る取組は遅れており、行政の危機管理担当部署に女性職員が一人もいない市区町村が約6割もあります。規模が小さい自治体だと女性を入れるのは難しいとの声もありますが、被災者支援を行う人が男性だけの状況で、女性や要配慮者は本音を話すことができません。か。災害時は困っていても、声を出しにくい雰囲気があります。被災者のニーズを直接聞き、改善に向けて動くことができる女性たちの存在は重要です。

また、これまで「女性」の想定は、子育て中の母親や高齢女性に偏っており、未婚や子どものない女性たちの存在が見落とされがちでした。さらに、障がい者や外国人の対応は性別に配慮せず、一括りにされてしまいがちです。こうした複合的なニーズについても丁寧な検討が求められています。

女性や少数者への配慮はまだ属人的な対応にとどまっています。行政や地域コミュニティにおいて男女共同参画の理念や人権に関する理解を根付かせ、女性を含む幅広い人材を防災活動に誘い入れていく必要があります。

男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン〜(内閣府)が公表され、これに基づき自治体ごとの状況調査が行われ、可視化されるようになりました。

実践者がいないと「絵に描いた餅」

女性や要配慮者らへの対応は、避難所運営マニュアルや備蓄計画にも、記載されるようになりましたが、実際に避難所を運営する人や支援者が、その本質を理解していないと、災害時の混乱の中で後回しにされてしまう恐れがあります。

昨年の能登半島地震では、現地の避難所の様子として「更衣室や授乳スペース、子ども向けの遊び場がないところが多い」と「避難所運営を担っていたのは市町の男性職員や自治会の男性が中心」「女性の着替え場所や子連れへの配慮を聞くと、考えたこともな

女性の参画は体制を見直す好機

30年前と現在とでは、私たちを取り巻く状況が大きく変わりました。少子高齢化が進み単身世帯が増えたこと、支援者よりも要支援者のほうが多い地域が増えたこと、公務員の数が減少していることから、自助・互助・公助ともにマンパワーが不足しており、これまでの男性中心の地域防災の体制が成り立たなくなっています。

これからの防災を考える時、鍵となるのは女性や少数者の存在です。女性たちが参画することで、これまで男性の視点や価値観だけで考えられがちだった災害対応に、「別の視点」を加えることができます。

建築や土木などに加えて、暮らしに関わる多様な分野に防災の要素を入れ込んでいくことで裾野が広がります。福祉や子育て支援、健康づくり、教育、消費者保護、人権擁護、環境保全といった分野に防災の要素を取り入れる「プラス防災」、それに「平時」と「非常時」の境目なく役に立つモノやコトを普及させる「フェーズフリー防災」などは、多様な人の知恵を集め、参加を促すことができるのでおすすめです。

女性たちが「配慮されるだけの存在」から「参画し変革していく主体」になることで、持続可能な地域防災への道が拓けるのではないのでしょうか。



PROFILE

あいかわ やすこ

相川 康子さん 特定非営利活動法人 NPO 政策研究所 専務理事

1965年京都生まれ。神戸新聞社に約20年勤める間に阪神・淡路大震災に遭い、市民救援活動や女性問題を中心に取材。後に論説委員として防災・復興関連の社説を担当。神戸大学教員を経て現職。2012年度は復興庁男女共同参画班上席調査官を兼務。現在は滋賀県や大阪市などで地方防災会議委員を務める。

見てみよう！



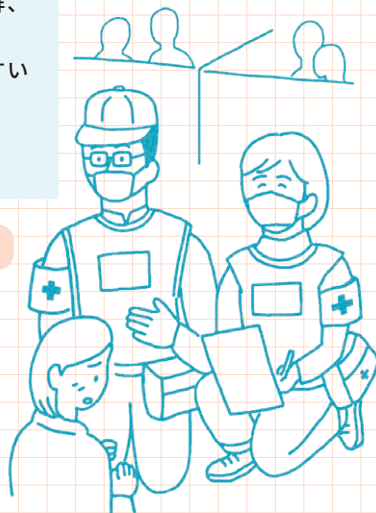
災害対応力を強化する女性の視点

～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～(内閣府)

3 「心身の健康と衛生環境を整える」

困ったこと

- 慢性疾患の悪化、感染症、エコノミー症候群、不活発病、ストレスの蓄積、不眠など
- 女性はデリケートゾーンが不衛生になりやすい（膀胱炎・外陰炎）、妊産婦のケア
- 男性はストレスを抱え込みがち、アルコール依存のリスクも



いいね！
対策

- 安心・安全・清潔なトイレや入浴施設を十分に
- 保健師や助産師等と連携したニーズの把握
- 医療従事者の派遣・巡回は男女ペアで
- 相談や保健サービスの提供
- ケアに必要な空間を確保する
- 体操や交流イベント

4 「物資や情報を受け取りやすく！」

困ったこと

- 女性用品、下着、育児・介護用品の不足
- 男性のみによる配布（女性が必要を出しづらい、受け取りづらい）
- 物資があっても、必要な人に届かない
- 在宅避難者に情報と物資が届きにくい



いいね！
対策

- 避難者の性別や年齢、障害の有無による困りごとの把握を行い、情報を支援に活用する
- 女性の物資や困りごとの聞き取りは、女性が行う
- 男女ともに物資担当者になる
- 在宅避難者も物資や情報を受け取れるように工夫する
- 備蓄物資の見直しに、女性・子ども・高齢者・障害者等も参加する

女性専用ルームは、女性用品置き場や物干し場、支援拠点にもなる！

1 「プライバシーを守って安全に！」



困ったこと

- 間仕切り、更衣室がないとプライバシーが確保できない
- ケアが必要な人ほど、避難所では過ごしづらい
- 性的ハラスメント・性暴力のリスクが高まる（誰もが被害者にも加害者にもなりえる）

普段よりも、声を上げづらい！

いいね！
対策

- プライバシーを守る十分な間仕切りがある
- 男女別のエリア（更衣室、物干し場、休養スペース、授乳室）がある
- 女性のみ世帯のエリア、子ども・障害者・高齢者等とその家族の優先エリア、女性専用ルームを確保する
- 女性と子どもの意見をきいて、環境改善を行う
- “暴力を許さない”という、リーダーや周囲の姿勢
- 犯罪が起こりにくい環境づくり（例：照明、トイレの位置）、相談先の提供、防犯ブザーの配布、巡回の工夫など

2 「食事とケアを性別で固定しない」



困ったこと

- ライフライン、保育、福祉、医療サービスの機能低下により、家族のケアが増大！
- 女性が職場に復帰できない。解雇されやすい
- 女性に炊き出しやケア役割（無償労働）が集中
- 避難所運営の責任者・リーダーの大半は男性（過度な負担）

いいね！
対策

- 子ども、高齢者の一時預かりを避難計画に盛り込む
- 地域の子育て、介護支援団体と協力体制をつくっておく
- 一部の人に役割や責任が集中しない体制をつくる

女性の視点でみんなを守る！
避
難
生
活
の
困
難
と
対
策

避
難
生
活
で
直
面
す
る
様
々
な
困
難。
み
ん
な
大
変
な
状
況
だ
か
ら……と
我
慢
を
強
い
る
と、
被
害
が
拡
大
す
る
こ
と
も、
一
人
ひ
と
り
大
切
な
命
と
健
康
を
守
る
た
め
に、
普
段
か
ら
地
域
で
話
し
合
っ
て
お
き
ま
し
よ
う。

どれくらい? あなたの地域では、
男女共同参画が進んでる!?

- 女性が発言しやすく、意見が尊重されている
- 町内会や自治会の役員に女性が3割以上いる
- 自主防災会や消防団で活躍する女性が何人もいる
- 行政の防災部署に女性が3割以上いる
- 地域の役割が、性別役割分担になっていない
- 町内会や自治会に入っていない人も、防災訓練に参加している
- 女性が安心できる避難所の運営について、話し合ったことがある
- シングル女性、障害者、外国籍等の困難を抱える女性を支援する団体がある
- DV・セクハラ・性暴力について、学びを深める機会がある
- 男女共同参画の視点の防災講座が開催されている
- 避難所運営マニュアルの作成に、女性の視点が反映されている

普段のあなたは?

- 地域の人とあいさつし、声をかけ合っている
- 地域のイベント・町内会・地域活動に参加している
- 家事・子育て・介護などの役割を家族全員で分担している
- 家族や身近な人と、災害時の行動について確認したことがある
- ローリングストックや備蓄・持ち出し品を用意している
- 地域の女性団体・グループを知っている
- ハラスメントやDV、性暴力の防止に関心がある
- 災害時は自分も支援者になりえると思う
- 地域の避難所運営マニュアルを読んだことがある

POINT

普段からの男女共同参画が、災害時にも役立ちます!

5 「意思決定の場に女性も参画しよう！」

困ったこと

- ▶ 避難所運営や復興の議論は男性が中心になりがち
- ▶ 女性、障害者、外国人などは、参加しづらい
- ▶ 外部の支援者は、少数の男性責任者を通してでしか、被災者のニーズを知ることができなかった

いいね!

対策

避難所運営や自主防災会のリーダーの3割以上を女性にする

障害者や外国人などの要配慮者と支援者を含めた多様な立場の人が参画できる機会をつくる

日常から女性が発言しやすい環境をつくる



お話を聞きたい

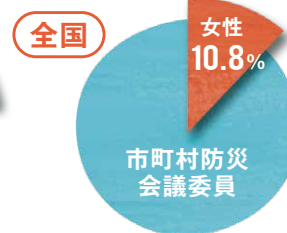
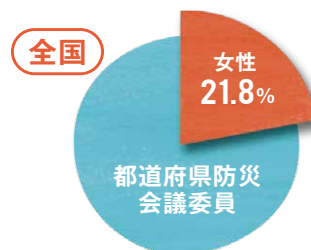


PROFILE

あさの さちこ
浅野 幸子さん

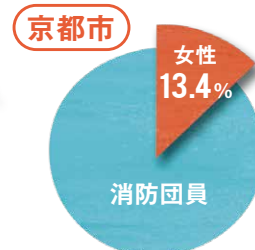
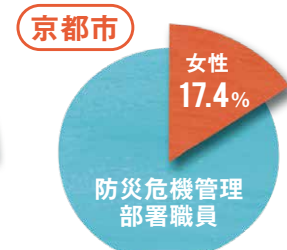
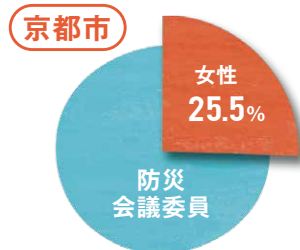
減災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表
早稲田大学 地域社会と危機管理研究所 招聘研究員
各地で研修・講演を行う。「男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン」等、国の政策にも関わる。博士(公共政策学)。

防災の意思決定の場における女性の割合



女性はずいぶん少ないね!

多様なニーズ、リスクへの対応力を高めるために、女性の活躍が求められます!



内閣府「男女共同参画に関する計画の策定状況」(令和6年度)、京都市行財政局及び消防局調べ(令和6年12月31日時点)

RECOMMEND
Book

もっと知りたいあなたへ

被災した女性たちの声をきく



『女たちが語る阪神・淡路大震災 1995-2024』
認定 NPO 法人 女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ【編者】
株式会社ベンコム
2024年



『彩りあふれる能登の復興へ 令和6年能登半島地震の女性の経験と思いに関するヒアリング調査』
フラはなの会、公益財団法人ほくりくみらい基金、被災と男女共同参画 研修推進センター (GDRR)、公益財団法人みらい RITA YUI みらいプロジェクト【発行】



やってみよう!!

家族や地域みんなで話す & 考える!

ウィングス京都では、男女共同参画の視点から災害時の困りごとへの対応を考えるための資料や教材を制作しています!



01 『KYOTO わたしの防災ノート』

災害時の経験や対処法、女性が選んだ防災グッズを紹介するほか、いざという時に必要な情報を書き込みます。



避難所と備蓄についても確認してみよう!



避難所

チェックシート



備蓄

チェックシート

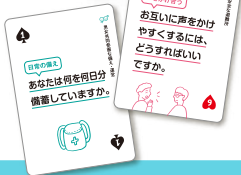
(内閣府)

02 『きょうとみんなの防災カード』

男女共同参画や、多様な視点で災害時の困りごとへの対応を考えるカード形式の教材です。誰もがが過しやすい避難所づくりのために、地域の集まりで使ってみよう。



オンラインストアにて販売中!



03 『男女共同参画通信 vol.56 やってみよう、"第三者介入"』

ハラスメントや暴力、差別が起きている、または起こりそうな場面で、被害を未然に防いだり、最小限にとどめるためにできること。



京都市男女共同参画センター ウィングス京都
〒604-8147
京都市中京区東洞院通六角下角の御射山町 262
TEL : 075-212-7490 FAX : 075-212-7460
<https://www.wings-kyoto.jp/>

研修・授業等で

男女共同参画通信を配りませんか?



オンラインショップからご注文いただけます!



バックナンバーがPDFで読めます!

